

# 総合病院だからこそ できる不妊治療

# 生殖補助医療開始！

## はじめに

当院は、地域周産期母子医療センターに指定されており、正常分娩から様々な合併症を抱えたハイリスク症例、宇都宮市内に加え遠方の医療機関からの緊急搬送の受入まで、年間1,000件近い出産に寄り添ってまいりました。また、産後ケアにも注力しており、妊娠から出産、産後までお母さんと赤ちゃんを幅広くトータルサポートできる体制を整えています。

「地域の未来を見据え、こどもを望むすべての方々に希望を届けたい。」その思いから、不妊治療の裾野を広げ、専門的かつ質の高い医療を提供するため、当院では生殖補助医療を開始しました。複数診療科を有し、必要な手術や入院治療も可能な総合病院のメリットを生かし、こどもを望むすべての方が安心して治療から妊娠、出産、そして産後まで、切れ目のないケアを受けられる環境を提供してまいります。

## 栃木県と少子化

日本全国でも少子化は問題視されていますが、栃木県は減少率が非常に高く、直近は日本全国の出生率よりも低い数値が出ています。栃木県や宇都宮市は、出産・育児支援に本腰を入れていますが、出生率は4年連続で過去最低を更新し、少子化に歯止めがかからない状況が続いています。

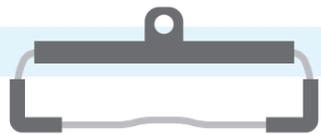
## 不妊治療の現状

まず「不妊」とは、妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで性交をしているにも関わらず、一定期間妊娠しないものをいいます。不妊の原因は、男性側、女性側、あるいはその両方にある場合がありますが、何も原因がない場合もあります。少子化が深刻化する中で、不妊に悩むご夫婦は増加傾向にあり、約4.4組に1組は不妊治療を受けたことがある（または現在受けている）というデータも出ています。不妊治療は定期的な通院と、治療が

長期間にわたることが多いため、できるだけ負担を減らすためにも、自分の住む地域、生活圏内に不妊治療を行える医療機関があることは非常に重要です。

## 当院の生殖補助医療

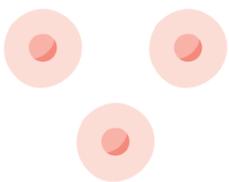
一般的に不妊治療は、カウンセリング、生活指導、薬剤投与、ホルモン治療、手術などさまざまな治療手段を含む言葉です。不妊症が疑われる場合は、まず、精液検査、血液検査、超音波検査などの様々な検査を行い、不妊を引き起こしている原因を調べます。検査によって不妊の原因がわかった場合は、原因に応じて薬による治療や手術を行います。それでも妊娠に至らない場合は「生殖補助医療」へステップアップを考えます。今回は当院で新たに開始した生殖補助医療について説明します。



## 生殖補助医療の流れ

### 1 卵巣刺激

経口の排卵誘発剤や注射による卵巣刺激ホルモンなどの薬剤を投与し、卵巣を刺激して複数個の卵子に成長させます。



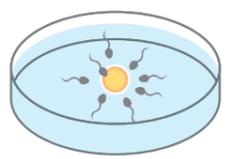
### 2 採卵

卵子が発育したタイミングを見計らい、超音波で確認しながら卵巣に針を直に穿刺して卵子を体外に吸引採取します。



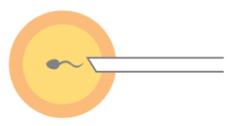
### 3 体外受精(培精)

シャーレ上で、取り出した卵子と特殊な方法で得られた良好な精子を混ぜ合わせ受精させます。



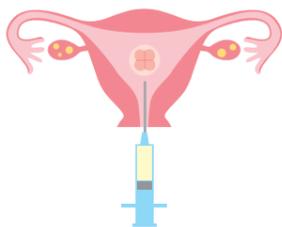
### 4 顕微受精

精子の数が非常に少ない場合や精子の運動機能が著しく不良な場合は、1個の精子を1個の卵子の中に打ち込み受精させます。



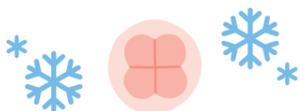
### 5 胚移植

数日間の培養により、ある程度成長した良好な受精卵(胚)を子宮内に戻します。胚移植後は着床を助けるため、ホルモン剤などを投与します。



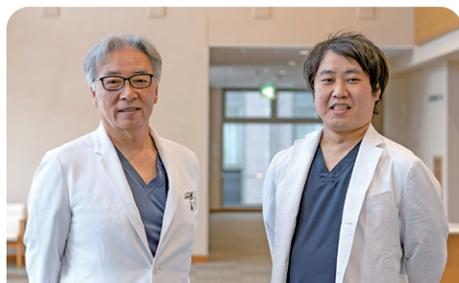
### 6 受精卵凍結と融解

良好な受精卵が複数得られた場合、次の胚移植に備え-196度の液体窒素のタンクで凍結保存します。必要に応じて胚移植する際は、受精卵をゆっくり培養液の中で融解し、凍結前の元の状態に戻します。



## 生殖補助医療を支えるスタッフ

医師、看護師、助産師、培養担当技師を中心とした様々な専門職がチームとなり、有効で安全な不妊治療の提供を目指します。



医師

生殖医療センター長  
産婦人科 主任診療科長 飯田 俊彦 (左)

生殖医療センター 副センター長  
日本生殖医学会認定生殖医療専門医 吉政 佑之 (右)

現在、栃木県全体として不妊治療の専門医は未だ少ないため、当院における生殖補助医療の充実・充足は、大きな意味があるものになると感じております。患者さんの治療に寄り添い、そして当地域のこどもを望む方々の力になればと願っています。



看護師・助産師

一般外来 課長 高川 真紀 (中央)

産科病棟 課長 大沼 のり子 (右) 産科病棟 係長 星 宏枝 (左)

看護師・助産師は、治療過程に応じたアドバイスや、医師、培養担当技師、ソーシャルワーカーなどへの橋渡しをする役割を担います。時に不安や葛藤もあるかと思いますが、一緒に悩み、思いに寄り添うことで、安心して納得した治療が受けられるようサポートします。



Check !

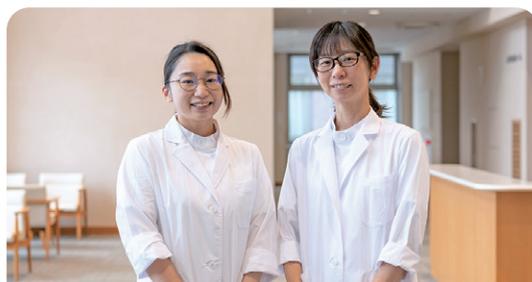
### 生殖補助医療を支える！培養担当技師

培養担当技師は、胚（受精卵）を扱う専門職です。体外受精をするのに必要な採卵や移植は医師が行っていますが、採取された卵子や精子が培養室に届いてから移植するまでの一連の作業すべてを行います。具体的には、採卵した卵子や採精された精子の処理、受精操作、インキュベーターと呼ばれる孵化・発育装置内での胚の成長観察、移植しなかった余剰胚の凍結・融解など培養室におけるすべての業務を請け負う責任ある仕事です。採卵や胚移植の間、医師とともに処置に立ち会い介助もしています。また、患者さんに直接あってカウンセリングなどを行うこともあります。

少しでも多く「やっと会えたね」と幸せな親子対面ができるよう、技術や知識にさらに磨きをかけて全力で貢献していきたいです。



業務の様子



中里貴絵(左)、野崎真弓(右)



## クラウドファンディング挑戦終了 皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます

**最終寄付金額 : 29,299,000 円 総寄付者数 : 325 名**

当院は、この地域で不妊治療の裾野を広げることを目的に「不妊外来の開設」と「生殖補助医療の導入」を目指し、7月8日からクラウドファンディングに挑戦してまいりました。9月30日に無事終了し、当初の目標であった1,000万円を遥かに上回る結果となりました。温かいご支援と応援メッセージをお寄せくださった皆さま、そしてこの取り組みに関心を寄せてくださったすべての方々に、職員一同、心より感謝申し上げます。

いただいたご寄付は、生殖補助医療で使用する治療機器購入費の一部に充てさせていただきました。皆さまの想いを胸に、1人でも多くの方の願いに寄り添ってまいります。引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※クラウドファンディングとは  
インターネットを通じて活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金(寄付)を募る仕組みです。



培養室



倒立顕微鏡



インテバイオステーション